

# 下野市立緑小学校

## 1 学校課題

### (1) 研究テーマ

「共に学び合い、高め合い、認め合う児童の育成」  
～できる喜びを知り、自己肯定感・自己有用感を高める指導の工夫～

### (2) 研究構想図

**学校教育目標**  
自ら考え、主体的に行動できる心豊かな子どもの育成  
かしこく やさしく たくましく

### 目指す児童像と具体目標、本年度の努力点

	かしこく	やさしく	たくましく
児童像	学び合う子	思いやる子	きたえる子
具体目標	確かな学力の育成	豊かな心の育成	生きぬく力の育成
本年度の努力点	◎聴き合う授業づくり ◇学ぶ楽しさを実感する授業	◎認め合う仲間づくり ◇ふれあいの喜びを実感する学年・学校行事	◎鍛え合う心と体づくり ◇健康で豊かに生きる喜びを実感する学校生活

□前年度までの研究  
「心豊かに、学び・高め合う児童の育成」

□児童の実態  
①基礎・基本はよく身に付いている。  
②学習への関心・意欲が低い傾向にあり、自信を持って学習に取り組めていない児童が見られる。

□今日的な教育課題  
①児童の自然体験や社会体験の機会減少によるコミュニケーション能力や人間関係をつくる能力の育成不足。  
②学ぶ楽しさを実感する「学習への関心・意欲・態度」、自分のことが好きという「自己肯定感」、役立っているという「自己有用感」が低い。

**学校課題研究テーマ**  
「共に学び合い、高め合い、認め合う児童の育成」  
～できる喜びを知り、自己肯定感・自己有用感を高める指導の工夫～

### □研究内容

- (1) 授業での学び合いを通して、自己肯定感・自己有用感を高める指導の工夫をする。
  - ① S & U コラボ事業をはじめとした公開授業で実践する。
  - ② 一人一研究授業の形で全員が実施する。
- (2) 実態調査
  - ① Q U 調査, 自己有用感調査
  - ② 学力検査 C R T
  - ③ 全国学力・学習状況調査, 下野市学力検査
- (3) 研究のまとめ
  - ① 成果と課題の確認
  - ② 研究紀要の作成
  - ③ 次年度へ向けて



## 2 研究計画・研究内容

- (1) 低・高学年ブロックに分かれて研究チームを作り、S & U コラボ事業をはじめとした公開授業や一人一授業の指導案検討を通し、研究テーマに向けての研究を進める。
- (2) 実態調査及び環境整備

- ① 全国学力・学習状況調査・下野市学力検査・Q U調査（2回）・自己有用感調査（2回）
- ② 標準学力検査教研式C R T（1月）
- (3) 研究のまとめ（2～3月）
  - ① 成果と課題の確認
  - ② 研究紀要の作成
- (4) 研究授業等の実践

	年	級	教科	「単元名」・題材名・学校課題との関連・指導者
S & U コ ラ ボ 事 業	4	1	道徳	「グレンよ、走れ」（勤勉・努力、忍耐） ○自分の考えたことをワークシートにまとめてから全体に発表する。 ・指導者：宇都宮大学教育学部教授 松本 敏先生
	1	1	算数	「くらべかた」 ○互いの良さを感じ自分の考えを深めるためにグループ活動を行った。 ・指導者：宇都宮大学教育学部教授 渡邊 弘先生
	6	2	国語	「やまなし」 ○自分のがんばり度や成長を客観的にとらえさせる振り返りを行った。 ・指導者：宇都宮大学教育学部教授 久保田 善彦先生
一 人 一 人 研 究 授 業	3	1	道徳	「温かい言葉」（思いやり・親切）
	4	2	道徳	「温かい言葉」（思いやり・親切）
	1	2	算数	「くらべかた」
	2	1	学活	「ともだちカルタを作ろう」
	2	2	学活	「ともだちカルタを作ろう」
	6	1	国語	「やまなし」
	T	T	算数	「資料の調べ方」
	支	援	生	単 「冬の校外学習の発表会をしよう」
	支	援	生	単 「冬の校外学習の発表会をしよう」
	養	護	学	活 「目の健康」
5	1	学	活 「温かい言葉かけ」	
5	2	学	活 「温かい言葉かけ」	



※ 支援…特別支援学級

### 3 本年度の成果と課題

- (1) 成果（主としてS&Uコラボ事業に関する研究授業等を通して）
  - ①全体会では、グループでワークショップを行うことで、活発に意見交換をすることができた。（付箋の活用、司会や発表の役割を交代で行うことも効果的だった。）
  - ②全学年で研究授業を実施することで、「伝え合う」「発表し合う」「話し合う」活動のそれぞれのよさを、確認することができた。
  - ③自己肯定感、自己有用感を持たせるための評価の大切さを再確認し、学年に応じた自己評価のあり方を検討する機会をもつことができた。
  - ④小グループでの話合いやワークシートに書く活動を取り入れることで、発表時にしっかりと話せるようになってきた。
  - ⑤児童が感じたこと、考えたことを表現させる際の、有効な場面設定の仕方について検討することができた。今後も柔軟に考えていきたい。
- (2) 課題
  - ①児童の自己肯定感、自己有用感を授業の中でも高める必要があり、そのために評価は重要だと考える。自己評価の方法や授業のまとめ方等を考えていく必要がある。
  - ②話合いをさせるときの教師の指示が大切であると感じた。話すポイントを、児童に分かるように示す必要がある。（話す、掲示する等）
  - ③少人数にした方が活発に発言するようになるが、やはり自分の考えをしっかりと持っていないと活動に参加できない。児童一人一人に自分の考えを持たせようとして話合いに入る工夫が必要である。